（特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式）

令和3年度　徳島県立阿南支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立阿南支援学校長　猪子　秀太郎

1　学力向上検討委員会構成

学　力　向　上　検　討　委　員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校　　長 教　　頭 教　　頭	猪子秀太郎 坂本　美恵 中村　敏恵
学力向上推進員	教諭（高等部長）	宮本　哲也
委員	教諭（小学部長） 教諭（中学部長） 教諭（教務課長） 教諭（研究課長）	今井　光子 後山　真吾 松田　史子 中村　加世

2　学力・学習状況における現状分析，目標等

【3つの視点】

（1）基礎的・基本的な知識・技能の習得

（2）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

（3）主体的に学習に取り組む態度の育成

小　学　部　児　童　の　状　況			
よさ	毎日繰り返し行っている活動や日常生活につながる学習内容については，理解・定着が進みやすい。	課題	獲得した基本的生活習慣や知識・技能を，学校生活の他の場面や人，家庭生活で般化することが難しい児童が多い。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
キャリア教育の視点から，日常生活に必要な自分の身の回りのことをできるだけ自分で行うことができる。	個別の指導計画の短期目標設定時に，「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して，目標を1つ以上設定する。その目標を達成した児童が全体の85%以上になる。	前期目標達成率は100%，後期目標達成率は97%であった。個々の課題に応じて目標を設定し，日常生活の指導における自立度を高めることができた。 評価　　B
具体的方策（教員の取組）	**取組指標**	**取組状況**
「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して実態を把握し，個別の指導計画の短期目標を設定する。 ＊中間期の見直し	個別の指導計画において「日常生活の指導（朝・給食・帰り）」の日常生活チェックシートを活用して，現状の課題から1つ以上短期目標を設定する。	日常生活チェックシートを活用して，全児童の目標を1つ以上設定することができた。

達成状況を踏まえた改善事項
来年度も引き続き，児童の日常生活の指導における自立度を高めていきたい。 チェックシートの活用に関するマニュアルに具体例を入れたり，判断基準を明確化したことで，わかりやすかったという意見が多かった。今後は，特にチェックシートを初めて活用する教員に対して研修とフォローを丁寧に行いたい。

中学部生徒の状況			
よさ	学校生活全般において意欲的に取り組む様子が見られ，学習の理解や定着が進みやすい。	課題	高等部や卒業後の進路や生活についてのイメージがもちにくく，今後の生活に役立つ，身につけておくべきスキルがわかりにくい。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
キャリア教育の視点から，高等部やその先の生活と，今身につけるべき課題を意識して学習に取り組むことができる。	日常生活の指導（身辺自立に関すること，掃除に関すること）について，チェックシートを活用して個別の指導計画の目標を設定し，目標の達成率が80％以上になる。	日常生活の指導（身辺自立または掃除）についてのチェックシートを活用し，個別の指導計画の前期と後期の目標で，80％以上達成できた。 評価　B
具体的方策（教員の取組）	**取組指標**	**取組状況**
「チェックシート（朝・給食・帰り）」または「掃除のチェックシート」で実態を把握し，そこから日常生活の指導の目標を設定し，指導を行う。「自立活動」でも個別にスキル獲得についての指導を行い，日常生活の指導での般化を図る。 ＊中間期の見直し	「チェックシート（朝・帰り・給食）」または「掃除のチェックシート」から課題を取り出し，「個別の指導計画」の中に１つ以上目標が設定されているかチェックする。	個別の指導計画の目標をチェックし，該当する目標が設定されているか確認をした。指導の経過を共通のグラフを使って記録し，検討会を定期的に話し合いを持つことで，共通理解を図った。

達成状況を踏まえた改善事項

本年の取り組みを踏まえ，日常生活の指導（身辺自立，給食，掃除）のチェックシートの項目や内容を整理し，より実態に合ったものになるように改善する。手順書の簡易版の作成やチェックシートのチェック時期等について検討し，高等部への継続を視野に入れて，問題点等を整理しておく。また全体の検討会では必要に応じて個別事例の検討会を実施していく。

高等部生徒の状況			
よさ	学校生活全般において学習活動に意欲的に取り組む生徒が多い。	課題	生徒の能力差が大きく、生活・学習面ともに配慮が必要である。 学習内容が定着しにくい生徒が多いため，繰り返し学習の場を作ることが必要である。

具体的目標（目指す子どもの姿）	成果指標	達成状況
社会で必要とされる力として ①あいさつ・返事・報告・質問等のコミュニケーション能力の向上に取り組むことができる。 ②共同・協働・協力してものごとに取り組むことができる。	「個別の指導計画」において，コミュニケーション能力・社会性の育成に関する項目の評価が向上した生徒が80％以上となる。	95％の生徒で，コミュニケーション能力・社会性の育成に関する項目における，評価の向上が見られた。 評価　B
具体的方策（教員の取組）	**取組指標**	**取組状況**
生徒一人一人の特性を把握し，実態に合わせて，指導内容・方法を設定する。自立活動の授業等で意識付けを行い，作業学習等で般化できるよう支援する。 ＊中間期の見直し	生徒の実態に応じた，コミュニケーション能力・社会性に関する項目を個別の指導計画の目標として設定する。	生徒一人一人について，個々の実態に応じたコミュニケーション能力・社会性に関する項目を，個別の指導計画の目標として設定することができた。

達成状況を踏まえた改善事項

能力差の大きい個々の生徒の，実態に応じた指導をさらに進めていくために，それぞれの生徒の達成度等について，教員間における情報共有を図る機会を設ける。また，授業力向上のための意見交換や研修の機会を，学部単位，学年単位，コース単位等で適宜設定する。